

今治にある世界トップシェアの造船会社が四国のゴルフ場を数ヶ所取得し、子会社が経営に乗り出した。そのグループコースに弊社のゴルフ場基幹システムが導入されることになり、平成二十年六月に松山にお伺いした。

大阪から車で山陽高速道を走り、尾道から「しまなみ海道」に入る。造船所のドックがそこかしこに見える海道を五十キロほど走ると四国・今治である。そこから海岸沿いを松山方面に車を進め途中眺めのよいレストランに入って昼食をとる。

瀬戸内海に島が連なり対岸は戦艦大和の造られた呉、その先に広島がある、江田島の古鷹山らしき山も見える。この一帯は造船のメッカで戦艦大和が造られたところである。四十キロ先の敵艦を撃破することが出来た大和は当時の国家予算の四％を投入し、最先端技術を取り入れ建造された日本海軍の秘密兵器であった。この戦艦大和の完成によって、戦闘機の傑作零戦と最長射程距離の酸素魚雷、そして世界一の巨砲を装備した無敵戦艦が揃い日本軍は日米開戦に踏み切ったと推測される。

昭和二十年四月、フィリピン、台湾を奪われ、沖縄戦がはじまると、日本軍は九州からカミカゼ特攻機が出撃して応戦した。その状況を及川古志郎軍令部総長が天皇に報告した際、「海軍にはもう艦がないのか」と言われた。その言葉が大和一億総特攻のシンボルとして沖縄に向わせることになる。

すでに暗号を読まれていた大和の出撃は待ち伏せされていた。そして、護衛機のない無敵戦艦大和は米軍の飛行隊の攻撃によりあえなく薩摩半島沖で撃沈されてしまう。大和は武器としては期待に応えることは出来なかったが、その建造にはアメリカの自動車産業から学んだ生産管理システムが導入され、部品の標準化や工程管理が行われていた。そのノウハウが戦後の日本を経済復興へと導き、三十年たらずでアメリカの誇りでもあった自動車産業を打ち負かすことになる。

アメリカから学んだ生産管理システムを導入した呉と原子爆弾をアメリカによって投下された広島を同じ方角に望み、今も戦争を続けるアメリカの悲劇を思った。

その昔、日本は天然資源がないから豊かになれないと思ひ込み戦を始めた。そして今なお、石油の国では正義や安全の名のもとに戦が繰り返えされている。

松山城が聳え立つその下に、日本海々戦の名参謀秋山真之とコザック騎兵隊を破った陸軍中将秋山好古の生家が復元されている。いかにも新しいその建物は司馬遼太郎の「坂の上の雲」によって脚光を浴びた秋山兄弟を観光の目玉にしようとする松山の意気込みが感じられる。それにしても、家紋付きの陣笠と東郷平八郎の書だけしかない記念館とは謎めいている。その辺をガイドのおばさんに聞いてみた。

おばさんは、「日本海々戦の勝利を天皇に報告するため、佐世保に旗艦三笠を停泊させ上京していた時、三笠が謎の大爆発を起こし三百数十名の部下を失い、その時から秋山真之は人が変わってしまった」と言っていた。部下の冥福を祈る秋山は、戦後に生き残った軍人の苦悩の姿と同じであったろう。そして、追いつきをかけるように、後の軍縮をめぐる抗争が芽を出していたのではないだろうか。東郷元帥をはじめとするバルチック艦隊を撃破した夢を追う艦隊派と、アメリカと事を構えてはいけないと主張する秋山たちは対立し、条約派は敗れ一掃されてしまう。失意の内に、お国のためだけを考えた男は盲腸炎を患い「遺言」を残し、大正七年に五十歳で世を去った。「盲腸にその後の日本は翻弄された」とガイドのおばさんは言った。

「坂の上の雲」の中では秋山真之と親友の正岡子規や夏目漱石、菊池謙二郎等、大予備門での仲間との交流が生き生きと描かれている。日本人の意識を近代化させたこの世代には、今でも超えられない大空のような自由が見えていたように感じる。

旧制水戸中学の校長となった菊池謙二郎は教育者としてなにより自由な学問を実践させるべきだと主張する。生徒を教科毎にランク付けさせる評価方式を止めさせた、そのための期末テストを廃止した。それがために菊池校長は県知事から罷免される。菊池校長を支持する生徒達は同盟休校で対抗した。

全世界に発信されたこの紛争は菊池が辞職することで終結したが、本来好きな事を勉強して人間性を高めるはずの学校教育が、道具を作るような没個性教育に向ってしまっているのである。それは無意味な受験競争を生み出した。そして百年、その構造は今も変わることなく日本を蝕んでいる。

秋山真之が遺言とした「巨艦巨砲主義から航空機よる戦いに転換」は山本五十六などに受け継がれ真珠湾攻撃で実証されたが、陸軍との軋轢によりねじまげられ転換しきれなかった海軍はミッドウェイ海戦で主力空母4隻を失い、アメリカのリーダーや「信管、原爆などの新技術の前に歯が立たなくなり、三百五十万人の犠牲者を出した大平洋戦争に敗北する。

コンピュータが誕生して六十年が過ぎソフトの作り方も年々進歩している。それは、国際化と言う熾烈な競争を続ける経済戦争の産物でもある。単なる二進法の計算機であったコンピュータはハードとソフトの進化で巨大な情報処理マシンに変貌している。ソフトは命令記述方式のプログラムからイベント型の時代を経て、オブジェクト型と呼ばれるプログラミングに進化した。オブジェクトとはいわば情報処理ロボットでそれは処理能力がクラスとして定義されシナリオにより処理が行われる。

このオブジェクトの概念がコンピュータを大きく変え、社会を変えている。